

■若者ワークショップ概要

令和4年度第1回若者ワークショップ「都市農業×未来」記録

開催日時	令和4年12月17日(土) 14:00~16:00
開催場所	体験農園圃場
出席者	(学 生) 高校生3名、大学生5名、大学院生1名 (事務局) 西東京市生活文化スポーツ部産業振興課 原島主幹、樋口係長、永井主査 ランドブレイン株式会社 宇井
議 題	1. 挨拶 2. 自己紹介 3. 西東京市の農業振興への取組について 4. 農業者の方からのお話 ①体験農園農園主から ②新規就農者から ③農の体験ができる機会の価値について質疑応答 5. 圃場見学 6. 質疑 7. 今後の予定について

◆意見

①西東京市の農業について感じたこと

- ・野菜と果物しか知らなかったの、花や植木も西東京市の農業を支えていると知り、驚いた。
- ・地域ブランドや住民、行政が協力しており、将来も考えた取組ができていると感じた。
- ・行政側のハード面での支援の手薄さを感じた。
農家の持つ近隣への貢献、農業を続けたいという気持ちに応えられる施策があると良い。
- ・西東京市は、東京都の中でも農地がまだ多くある貴重な地域であると感じた。今後、東京・日本の農地保全に向けて前線で取り組んでいくのだろうと考えた。
- ・4つの軸で農業を展開していることが魅力に感じた。近隣の住民の方とのつながりが大きなメリットだと感じた。
- ・農地が減少しているという課題に対して、都市農地の利点を活かした様々な取組がなされていると感じた。
- ・幼稚園生や小学生の子どもたちに農業を教える機会があつてとても楽しそうだった。自分も小さい頃に農業体験をしたので、その記憶がよみがえってきた。先日、下保谷の屋敷林のイベントに参加したときにあった野菜がとてもおいしそうだった。
- ・農業のために様々な取り組みをしていると聞いて、初めて聞いたものばかりで、興味のある人しか知らない情報も多くあると感じたので、色々な人にどんなことをしているか知られるとよいと思った。

- ・農業に関する取り組みを手厚く行っていると感じた。
- ・体験者についてのエピソードを聞いて、興味のある人が多いと知った。

② 農業者の話聞いて感じたこと

- ・体験農園というものを初めて知ったけれど、おもしろい仕組みだと思った。
- ・現在大きな問題があるようには感じなかったが、これから人不足等による問題が深刻化する可能性があると感じた。
- ・農地の持つ多面的な機能を活かした農業を行っており、続けてほしいと思った。
- ・新規就農の魅力を発信することで、農に携わる人が増えると良いと思った。
- ・農地保全の手段の1つとして体験農園があると学んだ。野菜を作って販売するだけでなく、人々の交流の場を畑から作り上げることを農業者の使命の一つでもあると感じた。
- ・農業への思いが強く、熱量をとても感じた。
- ・お金欲しさに宅地化するケースは少ないことを聞き、非常に驚いた。お二人とも、都市農地の維持・活用に対して真っすぐに向き合い行動している姿が印象的だった。
- ・天候に敏感になったお話は面白かった。新規で始める時の経営は大変そうだった。お二人ともとても楽しそうに話されていたので、一番は農業を楽しむことが大切なのかなと思った。
- ・農業を通して様々な年齢層の人が交流する場となっていて、農業者の方の考え方が素晴らしいと思った。
- ・農業を行う環境は簡単ではないと思った。やりたい人、関わりたい人がもっとやりやすい仕組みがあればより活性化すると思った。

③ 西東京市のような都市農業の今後の課題について

- ・この会に参加していなかったら、都市農業のことについて知らなかったの、同じように知らない若者が多いことが課題だと思う。
- ・農地を借りている場合、貸借農地の返却を考えた時に、思うような開拓ができないこと。ハウスの設営などこのままでは進んでいかなないように感じた。
- ・農地を守る＝農業振興ではないという点を踏まえ、生産「緑地」とあるように、農地だけでなく、緑地として多面的な機能を打ち出したい。
- ・後継者問題が農業ではやはり注目されているように感じた。新規就農される方の支援やアフターケアなどの環境作りが市としての取組みに組み込むことも重要なのかと感じた。
- ・代々引き継げるよう、若者に魅力を伝えること。
- ・都市農業の魅力は認知されているにも関わらず、農地の減少スピードが追い付かない事だと思った。また、周囲が住宅であることから生じる問題は対策が難しいものだと思った。
- ・体験農園に中高校生の方が来ないと聞いたので、中高校生の農業体験があったらおもしろそうだと思う。大学生も農業イベントがあったら、参加してみたい学生はいると思うので、そのような機会があったらいいなと思った。
- ・やっている取り組みがもっとたくさんの人に知られるといいと思った。
- ・中高校生を中心に若者がもっと関心を持つような取り組みがあると将来的に安定すると思う。

令和4年度第2回若者ワークショップ「都市農業×未来」記録

開催日時	令和5年2月4日(土) 10:00~12:00
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎5階会議室
出席者	(学生) 高校生3名、大学生4名 (事務局) 西東京市生活文化スポーツ部産業振興課 池澤市長、下田部長、原島主幹、樋口係長、永井主査 ランドブレイン株式会社 齋藤、宇井
議題	1. 挨拶 2. 自己紹介 3. 前回の振り返り 4. テーマに沿って意見交換・アイデア出し ①風景・空間としての農地の価値 ②新鮮な農産物の価値 ③農の体験ができる機会の価値 5. グループごとに発表

◆意見

①学生と農業との連携

- ・学生は夏休みや平日に授業のない時間などもあるため、その時間を活用したアルバイトができる。
- ・有償はお金でなくて、野菜など現物支給でもよい。
- ・就活に活かせる。アルバイトの経験ができる。などメリットがある。
- ・学校の美術部などに呼び掛けて、農産品などのラベルを作ったり、農家のロゴを作り、運搬する段ボールなどに描くなどできないか。
- ・今の就活は勉強以外のことにも取り組まないと、うまくいかないため、「学生の頃に力を入れたこと」として、SDGsや食品ロスを紐づけて、農業問題の解決方法を見出すようなプログラムがあればよい。

②農業に関する情報発信

- ・情報拡散のため、SNSを駆使するのがよい。例えば、くまモンのように、めぐみちゃんが畑をバックに小さい子が真似してくれるような踊りを踊っている動画でもよいのではないか。
- ・スーパーなど農作物を販売する場所に、特定のイラストを使って、目につくようにする。
- ・レストランなどで、産地をお知らせするペーパーをおくことで、地域の売りなどもわかってもらえる。また、QRコードをつけて、西東京市のHPなどにとぶようにする。
- ・駅前でマルシェを開けば、寄る方も多いと思う。
- ・市内の直売所の場所を知らないため、どこにあるかSNSなどで発信があればよい。
- ・いこいなが農業している動画をYouTubeで発信する。

- ・PR方法として、種の配布があったら、興味持つ人が増えるのではないか。
- ・「推し活」の需要があるので、推しメンバーのカラーと同じ野菜の色をPRするなどがあったら面白い。
- ・食と農のつながりを知れたらよい。
- ・収穫祭があったらいい（作物を使った競技をするなど）。
- ・TikTok や Instagram のリールなど 15 秒ほどの動画があったらいい。
- ・芸能人が出てくれたら嬉しい。
- ・ブランドとして有名でなくても、生産者のこだわりを知りたい。
- ・スーパーの野菜と獲れたて野菜の違いを知りたい。

③流通

- ・学生アルバイトの報酬についても、傷がついて売れないものなどをもらえたら、食品ロスにもつながってよい。
- ・一般企業に直売所のようなボックスを作り、自由に購入できるようなものがあればよい。
- ・めぐみちゃんのマークが入った商品があれば、覚えてもらえるのではないか。
- ・会社の食堂で利用してもらえないか。食品ロスなど企業の関心の高さを利用できたらいい。

④農業体験

- ・獲れたてのとうもろこしは食べたい人多いと思う。
- ・小学校のバザーで獲れたて野菜が売っていたことや、保育園や小学校の時に体験したさつまいも掘りや作物を育てたことなどは記憶に残っているので、子どもの頃の体験は大切。
- ・自分たちで植えた稲を自分たちで収穫できると楽しい。
- ・農作物の加工体験は面白いのではないか（味噌づくり、醤油づくり等）
- ・高校でも農業の部活などあったら面白そう。
- ・体験は楽しみながら知ることができるのがよい。
- ・収穫体験もいいが、収穫から販売まで体験できるものがあるとよい。

⑤農業・農地の価値

- ・お花畑があるところには行ってみたい。
- ・空が広く感じる方がいい。景色がよく、落ち着く。
- ・四季を感じるができる。
- ・防災面の価値がある。
- ・有機農業の方がいい（虫の声があることや、環境にやさしいこと）。